

# 人間発達援助論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を身体と精神の両面から理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。

■**到達目標**：①人間発達の共通性・特異性、および人間発達に影響を及ぼす因子を理解する。  
②発達理論の特徴を理解する。  
③人間の発達段階各期における看護援助の視点を身体と精神の両面から理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山本 勝則・小田 和美・松浦 和代・宮崎 みち子・村松 真澄

■**授業計画・内容**：

- 第1回 人間と発達（山本勝則）
- 第2回 発達理論とその背景（山本勝則）
- 第3回 メンタルヘルスと発達（山本勝則）
- 第4回 受胎から胎児期・新生児期の特徴と課題（宮崎みち子）
- 第5回 生命誕生を支える看護援助（1）：胎児・新生児の看護（宮崎みち子）
- 第6回 生命誕生を支える看護援助（2）：母性の発達と母子関係（宮崎みち子）
- 第7回 小児期・思春期の成長・発達と発達課題（松浦和代）
- 第8回 小児期・思春期の健康教育とライフスキル（松浦和代）
- 第9回 育児と学校保健（松浦和代）
- 第10回 ライフサイクルにおける成人期の特徴と課題（小田和美）
- 第11回 成人期の発達と発達課題と健康問題（小田和美）
- 第12回 成人期の特徴と看護援助（小田和美）
- 第13回 ライフサイクルにおける老年期の特徴と課題（村松真澄）
- 第14回 老年期の発達課題と健康上の問題（村松真澄）
- 第15回 老年期の特徴と看護援助（村松真澄）

■**教科書**：舟島なをみ：看護のための人間発達学（第4版）、東京：医学書院、2011年。  
授業時に資料を配布予定である。

■**参考文献**：上田礼子：生涯人間発達学（改訂第2増補版）、東京：三輪書店、2012年。  
服部祥子：生涯人間発達論 第2版—人間への深い理解と愛情を育むために、東京：医学書院、2010年。

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況（含、授業内の小テスト・レポート）、および定期試験（各担当教員25%）による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

| 評価方法             | 到達目標 |   |   | 評価基準     | 評価割合 (%)       |
|------------------|------|---|---|----------|----------------|
|                  | ①    | ② | ③ |          |                |
| 定期試験             | ◎    | ◎ | ◎ | 内容の理解    | 各担当教員<br>20    |
| 小テスト・<br>授業内レポート | ○    | ○ | ○ | ポイントの理解  | 試験結果に<br>加味する。 |
| 授業態度             | ○    | ○ | ○ | 積極的な姿勢   |                |
| 出席               |      |   |   | 2/3以上の出席 | 欠格条件           |

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：本科目で修得する知識は、今後履修する専門科目の理解に必須のものである。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護の対象である人間理解の一側面として、発達段階に視点を置いて学修する。この授業を契機に、人間に関心を持ち、「人を理解するための自分の視点」を発見しよう。  
なお、第4回目以降は、人間の発達段階を基本に3講一組の内容（第4～6、7～9、10～12、13～15回）構成である。